道 藝 術 令和元年8月 http://www.toshogei.jp/

陳列はすっきりと整って、さわ力を結集して円滑に行われた。の搬入作業は今年も各部局のも二会場に分かれたが、両会場 が縮小さり一米に ال ا • ~二十八日、 がは四 かな印象に仕上がった。 装成った愛知県美 東 栄にて。 小され、 書 第二会場は四月 月 で 最 院人クラスの作 十二日 開 展 いとなっ 名古屋市 院人作 会場 にされ ~二十一日まで 昨 面積 た 術 品: 民 二十三日 説の展示 税 品品 0 第一会期 六 以ギャラ ボギャラ 都 合

受介澤局社日後進村十 十三 大 行 時 から華 澤 日、第一会場に 風 理 事 尚 ーやかに 長 Ŧī. 0) 会長 歯 開場 切 挨 れ 式。 て午 良 拶 のい木前

持ちに

になる。

L 鉄

田長事 新 業間中で を 加藤真 Ļ 部 いて恒

風岡

テ

1

プ

力

ッ

 \vdash

が

行

わ

n

藤真

風

氏

によっ

五城 会長

と大 くい回六のな シ タ 1 展十中拍 ヤ ラ É 丰 ツ カ



第一会場 開場式テープカット

品 午 に ニュ 7 会。 Oょ 後三 見入 0) 観 11 今年は場所を後三時からは授えっていた。 開 1 覧 ょ ・グラン 催で、 者 開 が熱 幕 Ľ ド 11 眼差 さっ ŋ 朩 を 授 テ 初 賞 ルに ^左しで作 8 式 7 لح な 移 名祝

賀

み、拝 品社理副藤 を込 事理 餘 授 した。 香 評 長 事 賞 をいただき、みな真剣に 桑原喬様より祝辞と作 挨拶に続いて前五禾書房 長・開式のことば、 両 式 常任行 表彰は 謝辞を読み上げ 陶 行は三品 理事。 山 真風 副 滑 理 氏 らかに進 伊 芳 7が気持 藤春 翠、 会長、 が 魁 安

り、

終了した。 式のことばを述 事 式

引き続 来賓あ わ 7 がせて一 祝 愛知県知事・名誉会長 賀 九 会 理 事 の常 が

暢な司

会



は

和

久や囲

李穎 駐名古屋領事 の雰

で会は名残惜しく幕を閉じ を賜った。 安 藤 抗宴は賑やかに が 潔先生の乾杯の かなど大 幹部役は販売 先 清舟 澤田敬介 駐 • 名誉 名古 き そして 副 者のお: 中日 会 会長 いいに 員 屋 屋総領事 大村秀 大村秀 様 0 美術 盛 新 北だ。 0 檀 よりご 長 崖副 中 ŋ 披 聞 0 進 0) 上 御 評 華章 開 館 上で露ん御評ご社館華草開副久や囲会司の常井がはがの目で発論祝事領人愛会会野か気場会流任口出会 上 h 社

七 百 最終日には

第六 + 六 回 展幹 部作 品品 抄 録

大

村

秀

愛知県知事 名誉会長

豆 子

之



会 長 風 畄 五 城



高中不川鄉功無裕區是 分類7 K 念夢後無亞隆 樓親飛為四 大村知事 観覧写真

受

位 品

真

準会員の部

私包里居 隆田山

多のきる

谁船藝堪 在皇方杨时常近白蘇婦題可以胜去日行五官士 相在後國公見接近城本外時間實路之

五不敢属与江沙村 時前村室等最近的私島四

列来门庭日荒草我心周正石太情

府各道時面的雷發東

陽恭藝各潛

会員の部

可去無雙:入我盛光果故

名言日高成即在并甘城州的名子专举在有意言的次圆多点发放人亦不平意来老锋分孩子等,苏至春山川等尽差陌程谁好,五代礼鞭写一旦中间度之艺是不多 在旧人名盖化醉 裏也读室 等 做事見易去青の治地中五食養 市教委賞賞 県教委賞 岩 # 水 玲

絜

重滿經職傷直性營花石書古名 玲

松本限中 道心的引台雪南王富文命 本至 呼時,大於銀屬見朝衣要為月時及電 大安雪後 任香歸 安

中日賞 井 游

袁 田

五人自古存今时间往去奉初造臣师友皇院另不城羊 美知州南川 范蒙全时 我另不成羊 真打炒南 —— 花蒙各一项的力之艺经历 经移 打拖追力拜孙教之烈曲娶老老 門路指回里至三邊倉巡乾珍

るか作者於此日信臣将不了共散 です 石學合教私在的印度开文经外本不多

間なけま有的産屋

明好有称

71 鈴 木

(3)

人門在空行為自正名於 我也是以是不多上城る无好人

風好五钱 其新得一少江鱼田思 一日公本今本苦、極知は城八種

在首果冬天後大為公不る少公日寸子小白 尚在相將還屬居自從 沒称劉 県教委賞 中日賞 知事賞 準大賞 渡 堀 玉 杉 橋 邉翆 原 渕 Л 府 新 玉 弘 桂 子

经都考永 和書家好事例 压化村爱養 理事長 木 大

石

常任参事 水 谷 紅



常任参事 松 浦 白



西 邑

101

久 學子 ∜北

第六十六回展私 による 0 選ん だ ح 0 作 品

名と作品写真、 れはと思われた秀作を八点選んでいただいた。 任理事以上の役員を除く)の 会長以下、 幹部七名の先生方に、賞 内二作品の講評を紹介します。 中か , s 0 対象とならない ご自分の (敬称略) その方 社中以外でこ 院人 々 の氏 (常

五城 会員長 五城 会員

風岡 五城 会長

①鳥居 玉香
②井分 潭風
白も輝くように美しい。
白も輝くように美しい。
白も輝くように美しい。
白・女一顆、朱文二顆の計三顆。布字に工夫を凝らし、味わいも三顆三様楽しめる。刀の切れも冴えていめる。

の大小・緩急を見恵の大小・緩急を見恵の大小・緩急を見れた行草は 事体。 ĸ 構文 成字

> さを 感

作余活 。白躍 をさ

菱 圭 春 花 園 華

北崖 副 会長

ク男 ①鈴木 礼美 管訥詩。力を裡に秘めて『 管訥詩、行草多字数。書線 社甫詩、行草多字数。書線 杜甫詩、行草多字数。書線 と気脈・ が次で、骨格堂々と気脈・ を変われて、 では動感のあるた。 ① **久** 筆 わ 管 鈴 **野**

。良 今 後 b

⑦⑤③ 三西城に絡 田山田期あ 敬清桑 華虹軒 (8) (6) (4) 横伊井 井藤分 青一潭

々を

白礼 **碩**

のり強く ハランスが素味、力強い線で開いた。 晴ら墨動

⑦⑤③②① 松八布信る作調多石い濃が粘鈴浦木目藤作者で字黒。淡あり木 き上 感 じら 5 れ、簡 n

13 大 13

蓮楓風

西尾 邑城 常任参 ①廣江蘭秀 ① 画し、強弱自在の体通し、強弱自在の体通し、強弱自在の体通し、強弱自在の体 のとして書き上ばのとして書き上ばる 素晴らしい。 素晴らしい。 素晴らしい。 素晴らしい。 素晴らしい。 素晴らしい。 まれり、後ろ **邑城 常任参** 深号自在の作品 は職務 『。紙 益背

上げた作品工業籠の 0 こ品のも

8 6 4 小大竹 島西内 芳 紫 一 泉 蓉 徑

常任参事

しの感

日の力量がよくばて淡々と書き上子数の小字ながな 一げら、

一京緑 華陶華 8 6 4 鬼 伊 竹 頭藤田 青一清 峰楓章

① 水

(7) ⑤ ③(2) 吉大内作柔の行勝快淡きの計画 一番 。 ら連草川作々ぶ小学 か線体 。 とり字 ながます ままままます。 水谷 紅楓 常任参事 の小字ながら余裕のある書の小字ながら余裕のある書きぶりで、全体が明るい。きがのまる書きがのまる書きがある。 あい

かく実に美しいと綿で線質の錬品を紹っている。 錬 一気呵 11 老練 高く、河成 \mathcal{O}

孤紫清 山蓉秋 8 6 4 山 櫻 北 下 井 原

桐 花 竹軒 筵 堂

伊村 大南澤 理 事長

1 🛧

①伊藤 南邨 ①伊藤 南邨 ② 鈴木 礼美 の黒が生み出す 重厚な書が、威風堂々とした存在感を示す。線よし、た存在感を示す。線よし、た存在感を示す。線よし、大存在感を示す。線よし、大方を感は見る者を魅了して やまない。 多彩に変化するねばり強い 線が紙面を圧倒。潤滑・肥線が紙面を圧倒。潤滑・肥線が紙面を圧倒。潤滑・肥線が紙面を圧倒。潤滑・肥線が紙面を圧倒。潤滑・肥線が紙面を圧倒。潤滑・肥線が紙面を圧倒。潤滑・肥線が紙面を圧倒。潤滑・肥線が紙面を圧倒。潤滑・肥線が紙面を圧倒。潤滑・肥線が紙面を圧倒。潤滑・肥線が紙面を圧倒。潤滑・肥線が紙面を圧倒。潤滑・肥線が低温を大力である。

下子本意的在漢之息俱不再多,由行段數行在在機到四人以後然被後更何人依容可向後太行在機以在引一十十二年來看直為給人作本故美

はなる

成及今ちと、な「西ははを有好し社を依らなる」 藤南 邨

P 新作 正天交通者公高至一种自 苏教育日前人自傷公本自俗

おがようれなりえる。

からるか るるかっして 喜神 うな 3 des るのとも . 地花 勝 Ш 香 艸

久野・松浦・西尾・木村選 鈴 木

一种的事不准不多五人的限力以為了的 社美士 三月本後人教顔をひる見は湯がたのからの 題る学在人具を使性と工品神経下述ころ 風岡選 飯 田 松華 内 90 _

七度教 春丛到 西官を 多进造 去粉 献 没物 13 如 近梦 海鸦 地水石液 放題

竹

風河·久野·木村選 井 分 潭 風 朱月河等 请 诗 書 共野山共 赤浜 [殿山市宇里山十一 萬 起 朱月河等 清 沙 七云去我一一 更 这一个人们,我们是这个人们,我们是这个人们,我们是这个人们,我们是这个人们,我们是不是一个人们的一个人,我们是这一个人,我们是一个人,我们是这一个人,我们是一个人,我们是这一个人,我们是这一个人,我们是一个人,我们就是一个人,我们是一个人,我们就是一个一个 同等

撰取发,预匀不操鳞,用勒秋吟波染薪冰沈宁里秀沙遗。爱学歌泣贺号好,难台名汪凇话校,陪阎汪喜言,哭弋的整名都穿面整线线缉该金粉的汤注整*呈晚舞9为舜琵琶那是内状内肾中效表布特殊正常次次向借称2年是00分全分全分的核名该称后为按肥,是茎盆致运疗、瘤生层胃中分泌或水体等等是依靠过信户尺向2中域等名法在差别和新的时间,2.这些复数是有多种原则是不要是是有多种原则是不要是一种现代的原则,是不够调估根格状态是这种意识在这种原则是含义是多种的现代。 藍

外秋三日晚鐘勢多夕 凌风吹扇翠 堅田岩門應比 良會湖上風光以受及烟軍歸帆失橋 在寒唐崎松田雨月冷石 化人容易彩鄉然 重七本 H

廣 江蘭

林宏鄉 神秘院写在核市谈不本任不理人与引起了到美生 変を事 中传需要天像在工中秋春移在山野場五百花的機及山西 久為發程果幸は事奏福不作果日於仍以

Ξ 希

华不見象人面恰 色書看題到看何事順"夢察歸只稱出價每天在學像候廚中經已在收燈好起昌爾與酒雖無限悲歌意不 於前部始別時銀高於明之首 中報 石

陶 艦 組 訓 り 이 프랑

屯少帝長安開紫極雙幾日月照乾坤 水天與五盛作長安朝閉重開蜀北門上鱼歸馬若雲 誰送君正行路難六龍西幸萬人歌地轉錦

信

入門也傳 以致外工 中全門是那

西尾・木村選 小 島 芳

15 えるる 学化 W/ WAND

西尾選 小

無限事山行然盘白雲深處老僧多聲 免沒好月刊相過都一西於度其等產

西尾選名 古路雅 翠

明把初出漢多時派温春尽餐脚走

水谷選 山 下 桐 軒

少年易老學雅成一寸之陰不可輕 朱色的偶成在山村多路的传统之秋鲜 4.

吉 弧

展左月二年 我立年學己爱主日李白的首年刊日一番 聖想、衣養花想写主風 なる 家花想写主風柳 艦

安藤選 須 藤春華

Company of the state of the sta まちょ 七里公玩艺 なるというあるちた 力

安藤選松田真香

北後ラ場一及主張相為の事か 西東南八都寺言 天他是那清香春春日人也经好主任不仅回了西海黄 在近多楼傷完了多月的遊出作錦行至之本本 風岡選 藤 枝

此所我必然的年過后は化文工之山的教言日中中国做就的明章以心何な何本意北人的看了 不過在為之中的女子藏當时獨多家 是并不是二

伊 藤芳 The state of the s 4

風岡・木村選 山 本 美 只飲美原作人 建硫石管学世名二項是安全衛 你你們是 公山不天地守震都沿 医虚心部 室日犯行身我求此輪上傷 子房品席衛庭屋戶馬尔院海信生指泰将海沙非韓能

27 夏 敬王不年之意平意之后的美世名·陈元五章二日日 上上 城中 居 居田 大田 大田 五古 三世 平寺名 系是梅子本艺看牙玄城杨春美 水谷選 櫻 井 花

いっているけるける

西尾・水谷選 大 西 紫 見大是一日 第一年 女山及門善将三日等機看成 竹堂者回 一月八天心十四山豐兴夫 当然=||党中 意日冷 水谷選 北原竹堂

淌 夢 庭 楚 山 四 在 天 涯 D 山山

故揮 弄倒经自有精 意 置好的生活 古祖后情写值

久野選 三田敬華

公門君一年 自然 出人心里成多城

多いる見ば はおしい 32

久野選 西 山 清

意れる情々堪的語の黄色不行跳系彩華高安度来看指索は素 本於的聯左旗子樂學到一面有多年是沒有首的於尊和多日 要素等除了於多力好不知是治路及到務了酒槽在江東本

久野選 城田 桑軒

京体郭一近往春雅在於释赏然的重要为发品点!! 路自中峰上盤四出辞權到江兵地盡

安藤選 三 村 菱 花

陽到岸情又回首望遂美官在海中失於之下 == 旅栈葉 戰以原流煙波灌荡在空碧桂殿然差倚夕柳湖松島 莲花寺晚動婦 提出道靈編子低山南重

吉

有做霜枝一年好景君須記五是橙黃橘保村 急多傳鐘鼓到西與荷盡已經學而盖前残論 中山虧處塔層、隔岸人家喚歌庭江上秋風晚末 安藤選浜、島・土



(6)

鸣為泉藝部各名

1

射而省後昭的

移時すべつす

梅春暖看至成

鬼 頭

及美人教,殿门是那里一方却以降人情,在有世典为品族陈 五年。第天城智人榜其曾都去沙风县是沙先公园的月鱼时全国为里的芙蓉不多好是吃暖雪好的 经专工户 作時甲萬里去經是還個後龍汽飛行等教列出版作 五年二十美人教小殿凡是玩學一名却你陪合作五名古典打目信至書時

木村選 梶 蘇

畑 中 花

山夢晚春出

上雄十四面任人居片理港美州委任務人 大 場 映

中の大田

£,

學想黃溪 丰 学 张 木村選 板 竹

第六十六回東書藝展 受賞者に聞く

海车

南京福京時期 丹美电话

今日北方信丁

ま事ない思報とふ動奏

名明日

多儒學、

植坡暖至多

山东位子道常時的

目

i i

Ĺ

Ĭ.

Ĺ

Ĺ

ı

i

ď.

設問内容は次のとおり。 の部の上位入賞者の方々にアンケートに答えていただいた。 今年も栄えある賞に輝いた皆さんの中から、 またその受賞作品は3頁に掲載しま 会員、 準会員

①現在学んでいる古典は

②その古典のどこに魅力を感じていますか

③今回の出品作で、 制作上特に大切にしたことは。

4 (受賞を機に) これから挑戦してみたいことは。

⑤ご自身にとって「書道」とは。

⑥受賞の感想と今後の抱負を。

会員の部

大賞



真風 加藤

② 力 元 ③墨量と行間のバラ 刀強さと紙にくいれ模墓誌銘。 い込む筆法。 シマスタンンス。

で、もっと色々なものに挑④まだ学んだ古典が少ないの

後も尚一層してお礼申

会員の部 導 進 お願して がり -し上げます,ますので、 ます。



橋爪 玉雪

[漢古詩 字形 帖

③ ② ① 行 運 傅 書 筆 山 ました。 室の潤渇、緩急のパコ書を主体に文字の など考え制作 リズム、

事を考えない時間が好きで筆の動きと共にあり、他のを動かしている時は頭の中がを動かしている時は頭の中がのような気がしますが、筆の日々作品づくりに追われてい ⑤日々作品づくりに追わ戦していきたいです。 す

⑥この度は身に余る賞を頂き ⑥この度は身に余る賞を頂き の自のバランスが生み出 会自の白のバランスが生み出 会自の白のバランスが生み出 会自の白のバランスが生み出 会自の白のバランスが生み出 のは、とうございます。こ

◆会員の部

小教委賞

(9)

きたいと思っています。自分らしい作品をつくってい

会員の部

知事賞

ます



堀渕

桂花

② ① 字 蘭 亭叙。 形と線質

淡々と無

④これからも、与えられた③気を込めつつも、淡々 ⑥身に余る賞を頂き、 ⑤自身を形成する上で となっているもの。 や課題に真摯に挑戦 与えられた機会 します。 一段とう。誠にあ 軸。

りがとうございます。今後も書の階段を一段一段上りめていきたいと思います。めていきたいと思います。の程、宜しくお願い申し上げます。

会員の部 中日賞



國府 新水

①杜甫、李白、白楽天、 人の絶

杉原

弘子

開閉、線質。

③全体の流れ、墨量。②蘓慈墓誌銘には字形、線質関戸本古今集には筆の開閉関がない。 ⑤ 日常の が、創作 ④ 古 筆

でも成長できるよう、稽古 がより御礼申し上げます。 事を通じて優しい先生方や 事を通じて優しい先生方や でしています。これからも に楽しく充実した日々を過 に楽しく充実した日々を過 でも成長できるよう、稽古 ⑥身に余る賞を頂きあ にで気 励も負 加み たい と思 11 ます。 ŋ がと

(10)② 漢 ちます 詩に対し 0) 意 7 れ لح を持失

2 1

ラ き 、 碑

※を交え

な体の 作ので字

づれな字

しる線わ

てよでれ

いう全る

でく、生

[する] 重厚

感覚

足

き

言く」こと にい。 にい。 なれを感

に

「書 た

まい八十 b 全身 0) 全霊 で で 0) で、

(5) (4) います。 驚きと感謝です。 せ r、毎回緊張します。 でた筆を真っ白な紙 た総続 し畏敬 たっ ぷのの 「な紙に 念を持 ŋ 故 墨を 豆子 おく 含 0 7 ま

ました。そして、支えて下さっ位様、誠にありがとうござい藝術院の諸先生方、関係各し上げます。 更に東海書道 修力に養の感 た津 岩 かよろしく と望んでおりますので、 本清蘭先生に厚く御礼申 水之先生、安藤清舟先生、 **ル限り、青申り心謝致します。** 体教室の皆様、 くと心得て続けていきたい お願い致します 的·身体的 家族すべて 今後は体

会員の部 東書藝賞



翠峰 渡邉

紙面に向かっている時は無 (⑥この度は思い掛けず立派な 賞をいただき、驚きと感謝 賞をいただき、驚きと感謝 で会の諸先生方の熱心なご 上でくれるものです。 と、松浦白碩先生はじめ游 を、、同門の諸先輩、書 をの方々の温かいご支援の お蔭と心より御礼申し上げ お蔭と心より御礼申し上げ お蔭と心より御礼中し上げ お蔭と心よりの趣味として始 してくれるになった。 広め 趣味として遅くから習 心になれ、至福感をもたら紙面に向かっている時は無思戦苦闘ですが、筆を執りムく奥深さを感じさせられめた「書」です。習う程にめた「書」です。習り程に います

会員の部



穂光 遠山

③文字の粗密、

、墨量の豊かさ。

変化。

②草書であるが、力 ③墨量と文字のが 社会との関わり 社会との関わり ればと考えています。との関わりに取り組 を通し をつけて 7 組地域 (6) 分を耐 なも て こつこつと更なる勉強を重で、これからも変わらず、 ま 上を目指しこので ねて参りた *だまだ努力不! のを福

のです。 を成長させてくれる 脚力と集中力を養ん

る大切い、自 なます。

みを感じます。クトに書に表れ

れ持

る

⑥この度は身に ありがとうごご れも日頃より か、者 : がとうごご

^熱心にご指導こざいます。こ

りがとうございませい度は身に余る賞な

くを頂き

と、楽しんでいることが、も私が書道が好きであるこめ感謝申し上げます。今後め、諸先生方のお蔭と心よ

13

と思

果や自分の気は的に自分と向と

々

にダ古せて 面イのて徹

白レ成く底

ちの

事が稽

き を

わ

合通

準会員の部 県教委賞

くと思

願い

いま

します

精進 るよう

して参ります

ます。

何進して参り

を見て下さる方に伝わ

るよう

今後とも



玲翠

準会員の部 市教委賞



玲翠

岩井

② ① 米 芾 四 と空間の光帯蜀 の自素 取在帖 ځ′ ŋ 方 文字の 彩強 な弱

1)

会にはいますが、まだまの創作。の創作。の創作。の創作。の創作。

下さっ。

賞

0 ح たこ[°] 寺れあ

よう、励みたいと思います。ました。もっと上達できるなご指導でここまで来られなご指導でここまで来られないと始めた書道ですが、伊袋に名前くらい筆で書きた

だ勉強だと感じています。

ح

の度は、

と喜びを感じていこのような賞を

③自然な運筆の中に変化と流 ③自然な運筆の中に変化と流 動美が感じられること。 作品づくりに挑戦したい。 作品づくりに挑戦したい。 な大学時代ですが、家庭を持 は大学時代ですが、家庭を持 ち子育て中にはなかなか出 を書に取り組む機会が持て、 と書に取り組む機会が持て、 と書に取り組む機会が持て、

ない生熱してがまのいい

⑥ こ の まさ道だすん書い クになればと思います。 す。今後もこの賞を励みんに心より感謝申し上げれた風岡先生はじめ、宏した。熱心にご指導いたした。熱心にご指導いたした。熱がほごがいった。 して参り ま す

· 準 会 員

中日賞

61

ま

た 当

・準会員の部 中日 賞



游虹

13墨の入れ方や文字の域2字形、運筆。 安井

4 3 2 1 卜楷線個黄 いです。 **愛賀と全体** 書かなの 性庭 品に b のし 作 挑戦 バい てたス

(5) しこのが無 度け になれ いなる、 がい

(11)

したり

東田 三輪子

脱戦しまった。まれている。 みたした

がけず素晴私にとっ

▶準会員 賞と自礼方品はば分申々制 これ この から とて かのしの作り未上おに 思い 気持 東書藝賞 も稽古に励んで参 ちを忘れず、 鈴木 久江

乾 杯

様ら

古に でも

。 に あ み

ŋ

少

成長

たし

思けいる

がいて

と

寸松庵色紙、

4 あ着きと、少しずつ の集中していくときの がない。 がありにし 力強さ。 0 中 つのし ľ ある

ありがとうございます。祝儀⑥この度は身に余る賞を頂き、ていく喜びです。 上達しいの落り上達し、 祝儀



来賓・役員壇上記念撮影

令 元 度 書藝 総 会

 \otimes

第35回2

9清和会書展

会は成立。 四七八名、 出席者二〇七名、委任状預かり で行われた。会員数八三〇名、 の司会で今枝大軒参事の開会の の東書藝総会が東区中電ホール 六月十六日 (日)、 羽根田菖風常任理事 合計六八五名にて総 令和元年



五城会長、 事の報告・審議に入った。 永奇昂先生を選出し、 とうが捧げられた。 司会者一任により議長に冨 木村大澤理事長が挨 続 以下の議 いて風岡

③平成三十年度監査報告 ④令和元年度事業計画並び ①平成三十年度事業報告

⑤新役員について

た先生十 力いっぱい。

八番の金文作品は、エネルギーに満ちて実に若々しく、

-ひまわりで開催された。

円熟.

魅

会員夫々に力作を発表していて盛会だった。

会書展が瀬戸信金本店・ギャラリーひまわりで開催、本会常任参事・西尾邑城先生率いる清和会主催、

講演会が行われた。中国古代青 谷紅楓常任参事の閉会のことば 国殷周青銅器と金文」の演題で 員・田畑潤先生をお招きして「中 はさみ、愛知県陶磁美術館学芸 で総会は無事終了した。 加藤真風氏に委嘱状を授与。水 の若干の移動が承認された。続 を快諾され、 は木村理事長が更に一期の再任 て66回展による昇格者代表・ 副理事長、 大きな拍手を受け (5) (C 常任参事席 休憩を 0 11



かな中国 思いを馳 \mathcal{O} せること 歴史に

に予算案

銅器の変遷、 鼎・尊、甲骨文・



しばし遙

三十五回展によせて 代表

現会

Ŕ 葵水先生、 育たないよ』と忠告を受ける に賛助出品を頂いたりして、 中豊村先生(後に退会)の方々 生から『この土地柄、 ひとなりました。 地元の先九八四年に第一回展開催の 志ある会員が参集。 梶田稲州先生、 書道は 神谷 田



改修で長 るも、 久手に移

途中、瀬んで参り

乗らずに人力で担いで上る…と 一が狭くて

> り しひまり まのギャラ 苦闘で てからは いう悪戦 た。 安定しま

ることと相成りました。 三十五回の記念展を開催出来 もこの度、全員の力を結集して の減少が進みました。その結婚・出産、移住等で たが、 が進みました。それで・出産、移住等で会員一方で高齢化や若い人

ぞご批正、ご指導をお願い申 んで発表したものです。現代書きまで、幅広く取 0) ならず心配しましたが、 ならず心配しましたが、各自月末から体調不良で指導も儘 努力で篆・楷行草・かな・ さて今展の作品は、 ものです。 どう幅広く取り組 私が六

ができた。 尺作品はエレベ

展 間

日々研鑚を重ねる東書藝各社中の書展を、 できるだけ紹介します

二点出品含む計一三三点が展

今後

13

会場に甲水之先生遺作、

日市市文化会館にて開

催。

広

日

月二

◇第41回 会副理事 宏道書会選抜展 本晴

日、栄サン 先生率い れ、幹部、 五月十四 会主催。 選抜メン て開催さ ラリーに シティギャ 日 る宏道書 十九

一合わ

和む好展。 場は親しみ易い雰囲気で、 イズの軸・ せて三十一点の展示。身近なサ 額作品が並んだ会

◇第43回公募 梓会書道展

日、愛知県美術館ギャラ催の公募展。五月十四日~ 事長率いる実力者集団・梓会主 愛知県美術館ギャラリ 香艸会長、 伊藤春魁理



◇第61回 新道書道会展

がっていた。

豆子甲水之先生亡き後、

じる故・

川南流、

圭

みを感

と際

٤,

重ひ

生の遺作が、

会の長い

伝統



◇第26回

無名會書展

確かに伝えていた。

61 会主催の 新道書道 する、

表の無名會が六月十

日

名古屋市民ギ

ヤ

ラ

本会常任理事・渡辺清香

表日 < 栄で第26回展を開催。 会員それぞれが自 楽し 由代



 \Diamond

)第 62 回

游心書展

本会常任参事)が第62

口

書展を六月五日

九日

游心書道会(代表・

益々の発展が期待される。 示され格別な作品多数。

の 子 井 故 品 生 蛙 澤 故、 の 事。 した と 現

ハイセンスな二十一点は 性的で個

美術館 愛知県

・ヤラ Ì

で

素敵。

十九 九 点 五 の

'19 好日社(岩田冬崖 心象展

会員

開催。

魅力的で盛会だった。



知 日 / 月 は 県 変 五 日 七

術館 リギ

(13)

在感が抜群 計七十八点を展示。冬崖先生は 木紫舟、 ーで開催。46 **久野北崖、本瀬芝青、** 堀場仁翠、 回展を数え、大小、 各先生の存

◇第8回稲香印社展 篆刻と書

梶田稲州本会常任理事(稲州



在ら 香印 る いる

た。 み、魅力的な作が多く並んでい の第八 り高める表現は上質で雅趣に富 一十八日、 催。 回 展 名古屋市民ギャラリー 印が書を、書が印をよ が、七月二十 三日 (

第 53 回 三十一日・九月一日開催 八月二十日 尚 次号に掲載予定です。 [碩山 第 45 回 ~ 二十五日 院 記 念 宏 展 道 1開催 八八月 書 0) 展

今日の書」代表作家展

'19

社、 を展示。東書藝は幹部二十名が、 れぞれを代表する作家の五十点 栄に於いて開催。 日 海書道藝術院の四団体から、 令和元年七月九日 中 〔日〕、名古屋市民ギャラリ 以文会、 部 巻 [書芸作家協議 玄玄書作院、 例によって書典 火 会主 (十四四 東

出 品した。 で

個性豊かな作を

風 岡五城 会長



令和元年今後の予 定

슾

会場 会期 会 期 場 日 ⇔第 主 ◇2019東書藝研修 39 回 三重県鳥羽市・ 9月8日 飯 飯 9月19日(木)~ 田創造 \mathbb{H} 書人会 飯 田 (日)~9日 館 書人会展 加 Ź4 日 Ш 戸 幽 田 火 石 月 家

藤純 ラス 五. 夫代表 書刻 月 展 日 (が 六日 主催。 催 伏見電 された。 一名の作家が参 気文化 本会賛助会員 会館西ギ 加され、 ヤラリ ハオフ イ 本会風岡 スイズ 1 に 7 五.

ち前の サンド とし でみ 工程 城会長が れることを感じられた展覧だった。 なっていた。 て取 ての書の イ 心する。 b 書 開 プラストエ 「き お れるその 示され 月 光 元が美し 会場は 幅 ろし作品 ガラス書が~ を、 Ē の作 法で彫刻 墨 ささの 上の潤滑 見事に広げてく 現代的なディス 確 で繊細 を、 で出品。 重要 ゃ ガラスに アートル な技術 な要素 筆意ま ていく 裏打



⇔第 23 回 東書藝選抜 以小品展

会場 会期 主催 9月 栄サンシティギャラリ 東 海書道藝術 24日(火)~ 29 日 <u>日</u>

◇ 第 20回 心書会展

会期

10月4日(金)~6

Ĕ

日 日

◇ 第 会場 36回 心 亀山市文化会館 中央コミュニティセンター 書会(安藤清 花墨会展 舟

会場 会期 11月16日 (土):17 示室 一県菰 野 町 図

 \exists

(H

書

館 2

発行

東海書道藝術院

主 室

岡

麗

編 集 後

⇔受賞者アンケート、 ◇今号は八つの社中展を紹介。 動した。こんな偶然が嬉しい。美術館の素晴らしい展示に感>長野で見つけた柳田泰雲書道 き、感謝申し上げます。猛暑ては多くの方々の協力を頂 其々意欲的で頼もしかった。 ですが、皆様どうかご健勝 式典写真の掲載にあたっ具者アンケート、優秀作

令和元年八月 第一三八号

加 舟 亭